

番号	ページ	章番号	施策番号	施策名など	原案（修正前）	修正案	修正理由
1	4			2 計画策定の背景	<p>■人口構造の変化に伴い顕在化する諸問題 また、都市部への人口集中は続くものと考えられ、地域間で福祉や教育などの暮らしに関する水準や経済活動の格差が拡大することが懸念されています。</p> <p>さらに、一部の地域では過疎化が進行していくものと考えられ、地域に暮らす人々が地域のコミュニティ機能を高めていくことが重要となっています。</p>	<p>■人口構造の変化に伴い顕在化する諸問題 また、都市部への人口集中は続くものと考えられ、地域間で福祉や教育などの暮らしに関する水準や経済活動の格差が拡大することが懸念されています。</p> <p>そのため、様々な取組により人口減少の抑制を図ることが必要となっています。</p> <p>さらに、一部の地域では過疎化が進行していくものと考えられ、地域に暮らす人々が地域のコミュニティ機能を高めていくことが重要となっています。が求められます。</p>	<p>今後、人口減少が大きな課題となってくるため、人口の減少を抑制する必要性について記述する必要がある。</p> <p>そのため、「社会潮流の変化」の項目において、人口減少を抑制するために様々な取組を進める必要性について言及すべきと考える。</p>
2	4			2 計画策定の背景 (2)わがまちの姿	<p>③沿革 1871年（明治4年）に廃藩置県が行われ、同年に松浦郡伊万里に県庁が置かれたが、翌1872年（明治5年）には佐賀県と改称し県庁を佐賀に移しました。その後、長崎県に合併しましたが、1883年（明治16年）には佐賀県として分離独立し、現在の佐賀県が成立しました。また、佐賀市は1889年（明治22年）に市制を施行し、佐賀県の県庁所在地となりました。</p>	<p>③沿革歴史的 특성 「さが」が歴史に登場したのは、「肥前国風土記」に遡り、日本武尊が九州御巡幸の時、この地に楠の大樹が繁り栄えているのをみて「栄の国」と言われ、後に改めて「佐嘉郡（さかのこおり）」と呼ばれたと記されています。その後、明治時代に現在の「佐賀」という地名となりました。</p> <p>江戸時代には鍋島氏が佐賀藩を治め、幕末には製鉄、加工技術、大砲、蒸気機関、電信などの研究や開発、生産を行い、最も近代化された藩の一つとなるとともに、教育の充実によって、明治維新期に日本の近代化を推進した多くの人材を輩出しました。</p> <p>※地名の由来には諸説ある。</p> <p>1871年（明治4年）に廃藩置県が行われ、同年に松浦郡伊万里に県庁が置かれたが、翌1872年（明治5年）には佐賀県と改称し県庁を佐賀に移しました。その後、長崎県に合併しましたが、1883年（明治16年）には佐賀県として分離独立し、現在の佐賀県が成立しました。 また、佐賀市は1889年・・・</p>	<p>本市のバックボーンは歴史的に藩政時代に見出せる。「沿革」は行政の仕組みの流れを記載しているものであるため、歴史的風土についても記述することが望ましい。</p>
3	11			(1)基本理念	<p>② 安心して暮らし続けることができる地域社会へ！ 本市では、低平地という地勢に加え、近年、集中豪雨の増加に伴う内水氾濫への対応が急務になっています。</p>	<p>② 安心して暮らし続けることができる地域社会へ！ 本市では、近年、集中豪雨の増加に伴い、低平地である平野部の内水氾濫への対応や山間部の土砂災害の防止対策が急務になっています。</p>	<p>本市は、北の山間部から南の低平地といった多岐にわたる地勢を有するため、山間部の土砂災害防止対策についても記載すべきである。</p>

番号	ページ	章 番号	施策 番号	施策名など	原案（修正前）	修正案	修正理由
4	11			(1) 基本理念	④ 地域の個性を磨き、自立したまちに！ このような中、健全な行財政基盤の確立とともに、これまで以上に地域が自主性・自立性を持って、知恵と工夫を最大限に発揮していくことが必要です。	④ 地域の個性を磨き、自立したまちに！ このような中、健全な行財政基盤の確立とともに、これまで以上に地域が自主性・自立性を持って、知恵と工夫を最大限に発揮しながら、 総合的な視点に立ったまちづくりを進めていくことが必要 です。	中心市街地と福祉・子育ての連携など、施策を横断して機能的な結びつきを考えながら取り組んでいく姿勢を書き加えることが望ましい。
5	14			(3) 基本政策	②災害に強く、安心で利便性が高い暮らしが実感できるまち 特に地震や豪雨等の自然災害に対しては、防災・危機管理体制の充実や地域における防災力の向上を図るとともに、大雨に伴う平野部の洪水・内水氾濫や山間部の土砂災害への治水・治山対策に重点的に取り組みます。	②災害に強く、安心で利便性が高い暮らしが実感できるまち 特に地震や豪雨等の自然災害に対しては、防災・危機管理体制の充実や 防災教育・啓発等を通じた 地域における防災力の向上を図るとともに、大雨に伴う平野部の洪水・内水氾濫や山間部の土砂災害への治水・治山対策に重点的に取り組みます。	東日本大震災以降、「防災教育」がますます重要となっているため、文言として明記すべきである。
6	15			(3) 基本政策	④恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち また、水とみどりの調和をはじめ、良好な街並み形成や田園、クリーク等の自然景観の保全等に取り組むとともに、身近な環境問題である大気汚染や騒音・振動等の対策やペット問題、空き家の適正管理などの生活環境の改善に向けた取組を充実します。	④恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち また、水とみどりの調和をはじめ、 生物多様性の確保 、良好な街並み形成や田園、クリーク等の自然景観の保全等に取り組むとともに、身近な環境問題である大気汚染や騒音・振動等の対策やペット問題、空き家の適正管理などの生活環境の改善に向けた取組を充実します。	環境のキーワードとして、「生物多様性」が柱の一つであると考えられる。本市は自然が豊かであり、市でもラムサール条約登録に向けた取組などを推進しており、文言として明記すべきである。
7	15			(3) 基本政策	⑤ふるさとに愛着と誇りを持ち、魅力ある人と文化を育むまち あわせて、市民誰もが生涯にわたって様々な知識や教養を身に付けることができる環境や、心身の健康づくりに向けてスポーツに親しむことができる環境、これまで培ってきた歴史・文化の適切な保全・活用や市民文化活動の環境整備に取り組めます。 また、・・・	⑤ふるさとに愛着と誇りを持ち、魅力ある人と文化を育むまち あわせて、 また 、市民誰もが生涯にわたって様々な知識や教養を身に付けることができる環境や、心身の健康づくりに向けてスポーツに親しむことができる環境を 整備 します。あわせて、これまで培ってきた歴史・文化の適切な保全・活用や 市民文化活動芸術の環境整備創造につながるよう取組み取組を進めます 。 また、 さらに 、・・・	原案では、表題に比べ、文化の振興に関する記述が弱く感じられる。「文化を育む」という趣旨をもっと強く記載すべきと考える。
8	17			(4) 土地利用	①土地利用の基本方針 ●人口減少、少子高齢社会に対応した拠点集約連携型都市構造の実現に向け、今後も引き続き、土地需要の量的調整や土地利用の質的向上を図り、都市機能を適正に配置したコンパクトな都市形成を推進します。	①土地利用の基本方針 ● 人口減少、少子高齢社会に対応した拠点集約連携型各拠点の役割に応じて機能分担がなされ、中心拠点及び地域拠点が有機的に相互連携した都市構造の実現に向けてするため 、今後も引き続き、土地需要の量的調整や土地利用の質的向上を図り、都市機能を適正に配置したコンパクトな都市形成を推進します。	「拠点集約連携型都市構造」の文言が分かりにくいいため、表現を改める。

番号	ページ	章 番号	施策 番号	施策名など	原案（修正前）	修正案	修正理由
9	20			(4)土地利用	V) 川副地域拠点 本市の南部に位置する川副地域は、佐賀県の空の玄関口である有明佐賀空港を有し、また、ノリ養殖業が盛んな地域であり、市の支所や教育施設などの公共公益施設を中心に大規模な住宅地が形成されています。	V) 川副地域拠点 本市の南部に位置する川副地域は、佐賀県の空の玄関口である有明佐賀空港を有し、また、ノリ養殖業が盛んな地域であり、市の支所や教育施設などの公共公益施設を中心に大規模な比較規模が大きな既存の住宅地が形成されています。	川副支所周辺は、以前に比べて、空き地、空き家が増えてきており、大規模な住宅地という表現に違和感があるため、近隣地域と比べて規模が大きいことと、既存の住宅地であることを表現するよう改める。
10	25			基本計画全般	—	・市民意向調査の概要については、「基本計画(分野別)の見方」(P25)に追記し、出典や根拠、注釈は第1次総合計画のような形で付記する。	市民意向調査によって成果指標を捕捉しているが、当該調査の概要を明記した方が親切である。あわせて、データの出典や根拠は、各施策に明記すべきである。
11	—			基本計画全般	—	■関連する計画 ・個別計画の計画期間を付記する。 (例) 農業振興地域整備計画 (H21～H30)	施策に係る「～計画」を明示してあるが、時代に合った課題に対応しているか分かるように、「いつ策定された」、「何カ年」の計画と記載した方が丁寧である。